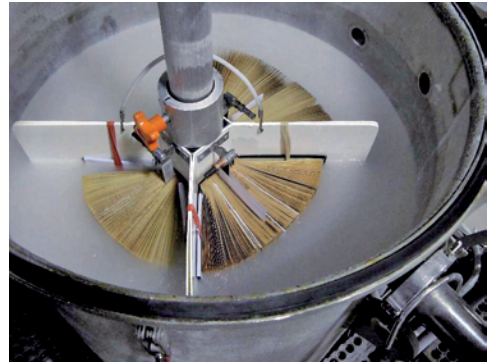


## News Source

## 図書資料の保存活動

1850年代以降に製造された紙を使用した図書資料において、製紙過程でインクの滲みを抑制するために使用した薬品(硫酸アルミニウム等)が紙を酸性化させ、パリパリと砕け落ちるような現象が起っています。室内など乾燥した環境下では、この薬品(酸性物質)が脱水剤として働いて紙自体の必要な水分まで奪い取るため、図書資料は脆く崩壊しやすい状態になります。この現象は“スローファイヤー現象”と呼ばれており、本学図書館にもこのような酸性化による崩壊の危機にさらされている図書資料が多数あります。

本学図書館では、これら図書資料を将来にわたって利用者に提供し続けられるよう、図書資料の脱酸処理(酸性化防止)および保存・利用に向けた取り組みを進めています。当初、アメリカの処理工場へ対象資料を送って実験的に処理を行い、その後日本国内で稼動した処理工場を視察するなど試行錯誤を繰り返した結果、「Bookkeeper法」(\*)という大量脱酸処理法の採用を決定し、以来、この



脱酸処理中の資料

処理方法によって図書資料の酸性化抑制すなわち保存事業を行っています。

しかしながら、1冊にかかる費用は小額ではなく、全ての対象図書資料を処理することは困難であるという課題も抱えています。本館1館でできること、あるいは、他館と協力してできることなど、方策や方針などを今後も検討しながら、本学の蔵書を、現在の利用者から未来の利用者へ引き継げるよう取り組みを続けています。

ただ、こうした取り組みの反面、図書資料からページを切り取るなどの行為も目につくようになりました。簡単な補修は館内で行うなど日常的な保全に努めていますが、大掛かりな補修は専門業者に委託せざるを得ず、外注期間はその図書資料が利用できない、あるいは補修不能で今後の利用に支障をきたすなど、他の利用者にも迷惑をかける結果となっています。

図書館の図書資料保存活動にご理解いただき、人類共有の知的資産として本学図書資料を利用させていただきたいと考えています。

(\*)プリザベーション・テクノロジーズ・ジャパン (写真提供)

